

韓国農林畜産食品部プレスリリース 2021年8月8日10時41分

江原高城養豚農場で、アフリカ豚熱病（ASF）の発生に伴う防疫強化対策推進

<https://www.mafra.go.kr/FMD->

[AI2/2227/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGRk1ELUFJMjUyRjQyNSUyRjMyNzc3NCUyRmFydGNsVmlldy5kbyUzRg%3D%3D](https://www.mafra.go.kr/FMD-AI2/2227/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGRk1ELUFJMjUyRjQyNSUyRjMyNzc3NCUyRmFydGNsVmlldy5kbyUzRg%3D%3D)

1. 発生状況

□アフリカ豚熱対策本部（本部長キム・ヒョンス農林畜産食品部長官、以下「本部」）は、本年5月4日に寧越養豚農場での発生以降、江原道高城（コソン）郡の養豚農場においてアフリカ豚熱が3ヶ月ぶりに発生し、19年9月以降で計18例目となったことを明らかにした。

* '19年9月16日～10月9日：14件（23日間）、'20年10月8～9日：2件（2日間）、21年5月4日：1件以来、3ヶ月ぶりの発生

○8月7日、コソン郡の農場（約2,400匹飼育）で、アフリカ豚熱の疑い通報があった。農林畜産検疫本部で精密検査を実施した結果、今日（8月8日）に、アフリカ豚熱であることが確認された。

2. 初動措置

□本部は疑い通報時から迅速な初動対応を通じて、拡散防止のために全力で対応中である。

○アフリカ豚熱発生農場における移動制限と人・家畜・車両などの立入制限と飼育していた豚（約2,400匹）に緊急殺処分を実施中であり、迅速に完了する予定である。

○本部は8月8日午前6時から8月10日午前6時までの48時間の間に京畿・江原地域の養豚農場、畜産施設（と畜場・飼料工場など）と畜産車両の一時移動を停止命令を発令した。

○周辺農場（発生農場の半径10km内）の2農場に対しては移動制限措置を実施し、精密検査が本日に完了する予定であり、疫学関連の2つと畜場（鉄原・洪川）及び江原道内のすべての豚飼育農場（203農場）に対しても8月8日から14日まで予察及び精密検査を毎日実施することとしている。

*近隣農場の現状：（半径500m内）当該届出農場のほかなし、（500m～3km）養豚農場なし、（3km～10km）2農場計3100飼養

○江原道の養豚農場を対象に消毒車53台など利用可能な消毒資源を総動員して農場・道路などの集中消毒を実施しており、防疫実態点検も実施している。

3. 最近の状況と防疫強化対策

□最近若いイノシシを中心に、アフリカ豚熱検出が増加することにより、7月2日、国境地域の危険注意報を発令*し、7月29日に本部長がと畜場・ブロックフェンス現場点検を実

機械翻訳等に基づく仮訳

施すなど、防疫強化対策を推進しているところ。

*イノシシ ASF 発生：(21 年 5 月) 19 件→ (6 月) 20 件→ (7 月) 55 件→ (8 月 1 日～6 日) 19 件

*最近発生 (前年同期比)：('20 年 6 月 1 日～8 月 6 日) 61 件→ (21 年 6 月 1 日～8 月 6 日) 94 件 (54% ↑)

□ (最近の状況) これまで野生イノシシで、アフリカ豚熱発生が拡散され、現在までに全 1,517 件が発生した

○ (発生の特徴) 春に生まれたイノシシが活動を開始し、子供の年齢 (12 ヶ月未満) のイノシシでの感染が大幅に増加し、群れで生活をするイノシシの特性を考慮すると、広範囲な地域に汚染が進行したものと推定されている。

*イノシシは、単一または複数の家族が混雑を成し生活 (母と子 5 ～6 匹と一緒に生活)

○ (発生地域) イノシシの移動に応じて、休戦ライン近くで平昌・洪川・加平など南に発生地域が広がっており、白頭大幹を介して、忠清北道・慶北北部に広がることの可能性も排除できない状況。

○ (発生場所) 夏場にイノシシの活動範囲が広がり田畑や道路などの麓の下の農地近くで感染事例の発見が増加しており、発見地点近くも汚染されたものと推定される。

○ (海外状況) 欧州・アジアで、アフリカ豚熱発生が続いており、中南米ドミニカ共和国でも 40 年ぶりに再発するなど、世界的に流行している傾向にある。

*欧州：21 年 1 月以降、合計 8 カ国 5,115 件 (飼育 825、野生 4,290)、アジア：7 カ国 695 件 (681、14)

□ (飼養衛生管理) 養豚農場施設の改善と母豚舎など脆弱な要因の管理強化にあたり農場の防疫レベルを向上する。

○ (母豚舎) 防疫に脆弱な母豚の防疫管理を強化するため母豚舎への部外者の出入りを統制して前室を設置して出入り前消毒を強化する。

*母豚の管理人・機器の出入りの頻度がであると、発生リスクが高い。これまでの ASF の発生農場 18 件中 15 件母豚で発生。

-母豚舎の改修が避けられない場合の市・郡に申告した後、徹底的な衛生管理の下で実施するようにする。

○ (防疫施設) 汚染の農場流入遮断のための江原南部・忠清北道・慶北北部の 8 大防疫設備*と農場内の車両進入制御設備の整備を速やかに完了させる (国境地域は既設)。

* ①外部フェンス、②内部フェンス、③防疫室、④前室、⑤入荷・出荷台、⑥防鳥・防虫ネット、⑦斃死体貯蔵施設、⑧物品搬入施設

-残りの地域も年末までに段階的に施設の改善と 8 大防疫設備の設置を推進する。

○ (と畜場) 多くの豚を運ぶ車両が出入りすると畜場内においてアフリカ豚熱が発生した場合には、早期に遮断するために、母豚と肉豚の区分・係留等の管理を徹底して、全国の 11

の自治体を対象に訓練も実施する計画。

○（防疫上の注意・消毒）発生農場の防疫不十分事例を伝播し、防疫施設補完と農場の防疫実態を継続点検する。

-危険地域の河川や検出領域の周りの道路・農場などにおいて週 5 回以上の集中消毒を実施して、農場内ラット・害虫など媒介ブロックをため畜産環境・消毒の日（毎週水曜日）を持続運営する。

□（野生イノシシ）環境材料と斃死体の調査を強化し、発生・拡散の懸念地域のフェンスを拡大する。

○（捕獲・調査）国立公園とリスク郡（ピョンチャン・江陵・襄陽・洪川・麟蹄）を対象に調査を強化して五台山国立公園に捕獲枠・捕獲トラップなどを追加設置する。

○（フェンス）加平・洪川・平昌など最南端検出ポイントと養豚密集だけの周りにフェンスを追加インストールして、白頭大幹拡散防止のための広域フェンスを拡大設置する計画である。

4. 要請事項

□キム・ヒョンス対策本部長は、本日、緊急事態会議を開催し、夏のイノシシの活動範囲が農場近くまで広がり、アフリカ豚熱に感染したイノシシが発見されるなど、繁殖豚農場における追加発生の懸念が高まっているので、次の事項を徹底対応することを要請した。

○母豚舎の機材搬入の際は必ず消毒して部外者の出入りを統制し、避けられない場合を除いては、母豚舎の工事を禁止するなど、母豚社の管理を徹底。

○農場周辺の営農活動、農場内の部外者の出入りや消毒不十分など防疫の死角地帯がないように入念に点検・補完。

○野生イノシシによる汚染拡大を防止するために、野生イノシシの積極的な捕獲を通じた生息数の低減、感染死体の迅速な調査・除去、フェンスと点検・補完など野生イノシシ管理を徹底